

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4071500930, 株式会社ゆうわ).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 生活保護や低所得者、またはその家族に負担がかからないよう利用料金を低額に設定している。
2. 医療提携により24時間往診体制をとり、入居者の急変に対応している。
3. 施設的な対応にとられず、ある程度自由で家庭的な、日々の生活を送っていただいている。
4. 街中に近いが高台の小さな住宅街にあり、静かな環境を有している。また、公園も近く、緑や季節ごとの花々を楽しむ事ができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: Field Name (基本情報リンク先) and Value (URL).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄りの駅より歩いて10分ほどの高台に事業所はあり、利用者は、窓から住み慣れた街並みを見下ろすことができる。共有部分の窓からは大きな桜の木が臨め、近所には花を育てるお宅もあり、利用者は四季を感じながらその暮らしに寄り添う職員と共に各々のペースで穏やかに過ごしている。代表者の意向で経済的に余裕がなくても安心して入居できるよう、利用料金設定を設け、各種制度を活用している利用者もいる。管理者や職員は利用者が不快な思いをしない様に、声掛け等は職員間で気を付け合いながら日々の支援をしている。コロナ禍の中でも家族の面会をガラス越しの対面や電話での会話支援とし、できることを工夫しながら対応していた。現在も感染に留意しながら検討を続けており、今後も利用者が安心して楽しく暮らし続ける事業所として地域においても期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (radio buttons), and Achievement Details (numbered list).

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族や地域との関係を意識した、利用者本位の介護を目指すべく理念を作成し、職員はそれを共有することでチームとして日々の介護に努めている。	事業所内の目に入りやすいところに理念を掲示しており、職員は日頃から意識しながら業務にあたっている。月に1度の勉強会でも管理者が理念を話題に取り上げ、皆でその思いに立ち返りながら職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶を心がけ、施設周辺の清掃を行ったり、地域のサロン活動のための場を提供したりして、地域交流を図っている。	以前は事業所1階のホールで地域のサロンを開催しており、利用者も参加することで交流していたが、コロナ禍となり現在は別棟で開催している。日常の散歩で地域の方と挨拶するなどの交流を再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染防止の為、体験学習等の受入れなど実施出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染防止の為、開催できなかった。	外部評価の結果は事業所出入りに掲示している。運営推進会議はコロナ禍の中、開催について行政に確認しながら対応していたが、参加予定者への書面報告が遅れており、直ぐに送付の予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事案ごとの担当課への報告・相談や運営推進会議での話し合いを通じて協力関係を築いている。	コロナ禍での運営推進会議について、書面開催とするよう助言を受け、対応の調整を行った。最近市に感染報告や事故報告の提出時に相談することもあり、連携を密にすることで、協力関係の継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の学習会で虐待・拘束防止について取り上げ、資料を使用したり、グループワークをしたりして、各々が虐待・拘束をしないケアについて考え意識して業務に取り組んでいる。	事業所内の勉強会で、禁止の対象となる具体的な行為について随時触れており、職員へ周知している。家族の理解を得ながら身体拘束をしないケアの実践を職員は都度学習しながら努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の学習会で取り上げる等して、利用者への適切な対応を職員に意識付けしている。もし、必要があればボイスレコーダーの設置も検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期学習会で取り上げたり、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている利用者の支援を日頃から行ったりして、制度の理解を深めている。	日常生活自立支援事業から成年後見制度に移行した利用者がいて、職員は制度を身近に感じている。利用者や申込者に制度の利用が必要と思われる時は、職員は直ぐに説明できるよう体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときに時間をとってもらい、説明、理解、納得の上で契約を結んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望など確認している。また、運営推進会議に家族代表として、出席いただいて、そこでの意見等、参考にしてている。	運営規定の料金表示が分かりにくいと意見を受け、重要事項説明書と共に改定するなど、家族等からの意見は柔軟に対応している。面会の際は利用者の日頃の様子を伝え、家族からの会話の機会を作り意見を聞いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の支援の中で、職員からの要望を取り入れ、必要な備品を購入する等、職員の提案を活用している。	日頃の支援の中や毎月の勉強会で職員の意見を聞く機会を設けており、トイレの目隠しの位置や浴槽の変更など職員の意見を反映している。利用者の暮らしの改善にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は職員の休日の希望をとって作成している。また、月毎に担当者を決めて、その職員が中心となって、行事など様々な業務を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用には特に制限を設けず、態度や意欲を重視している。また、研修への参加は勤務扱いであり、交通費など費用の支援を行っている。	職員の募集は、年齢や性別で区別することなく、働く意欲のある人を採用している。勤務時間や雇用形態も職員の希望に沿って対応しており、職員の得意とする活動を発揮できる機会は職員のやりがいとなっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期学習会で人権をテーマに取り上げ、適切な言葉遣いなど、実践を促している。	管理者は特に、利用者に対する言葉かけや口調に気を付けるよう職員へ働きかけている。相応しくない対応を見受けた時は、その都度職員に伝え、自覚を促すなど人権教育に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの感染状況を確認しながら毎月の学習会行っている。また日々の業務の中での先輩職員からの指導などにより、職員1人1人の資質向上を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの感染防止の為、研修への参加は出来なかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後、CMが本人の面接を行ったり、事前にホームの見学に来ていただいたりして、御本人の入居の意思を確認している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・申し込みの時に、聴き取りの時間を作り、以前受けられていたサービス情報等を照会したり、状況によっては御家族の負担を軽減すべく検討している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や御家族の意向を聴き取りし、それに沿ったケアプランを作成する。また、状況によっては、訪問看護などの必要なサービスの導入を検討する。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業など出来る範囲で一緒にして頂き、終わった後、労いの言葉掛けを忘れないようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的には手紙を出したり、面会時には利用者の近況を伝えるなどしたり、御本人の情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止のため、面会を予約制にする等、一部制限しているが、面会時に必要があれば、同席して、会話の補助などの支援を行っている。	コロナ禍の中これまでの関係が途切れないよう、留意している。担当職員は3ヶ月に1度日頃の様子を手紙に書き家族に届けている。毎月の請求書発送時には、行事予定を同封し家族に生活の様子を伝えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課のレクリエーションなど、利用者が一緒に過ごせる時間を設け、職員が間に入って円滑なコミュニケーションが取れるように取り持ちをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院先へのお見舞いや再入居の申し込みへの優先的な対応などを行っている。また、情報提供や問い合わせにも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の観察・その時々表情・関わりの中での聞き取りにより、本人の意向を把握するよう努めている。	日頃のケアの中での会話や様子で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用と視線を合わせてゆっくりと語りかけ表情や目の動き、うなずきなどで推し量るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族との会話や生活歴などの記録から把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や記録・申し送りから本人の状況を把握し、それを職員全員で情報共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立案の際に本人・家族の意見を伺い、取り入れている。さらに担当者会議で看護師や他の職員の意見を取り入れ、より現状に即したものに仕上げている。	職員は利用者1～2名を担当し、3ヶ月ごとのモニタリングを行い、ケア会議で協議をして介護計画を作成している。看取りや入院など状況が変われば期間に関わらずその都度、計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子をありのまま記入。申し送りなどで情報共有し、ケアプランの達成状況の把握や見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関以外でも受診できるように御家族と協力し、付き添いなど支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣で季節ごとの植物を楽しめる場所やこいのぼり見学等の癒される場所を調べて、外出計画を立てている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、定期的な訪問診療・24時間往診体制をとっている。また、ご家族からの希望がある時、専門医受診の必要がある時は、御家族と協力し、支援している。	現在は全利用者が協力医の受診で月2回の往診がある。定期的な専門医受診は家族対応としており、家族対応が困難な場合などは職員が同行をしている。受診の結果等の共有は、医療申し送りノートを活用し全職員が把握できるようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時には24時間いつでも看護職員へ報告し、必要があれば主治医へ連絡し、往診や受診へつなげている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーによる情報提供や病院からの問い合わせに対応している。また、本人の状態によっては、病院のソーシャルワーカーやご家族に相談し、退院後の生活にむけて準備している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針について説明し、希望される方には同意書を頂いている。身体機能や食欲の低下等があった場合、医師・ご家族との今後の方針の話し合いをし、同意を得ている。その後も御家族・本人の意思を尊重しながら、看取り支援を行っている。	利用開始時に看取り指針に基づき管理者が家族、本人に説明を行っている。状況変化があったときには医師から家族に説明をもらいその都度、意向確認を行い、穏やかに最期を迎えられるよう取り組んでいる。希望があれば家族の宿泊対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期学習会で救命処置や緊急時対応マニュアルについて取り上げ、理解を深めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出火場所、昼間想定、夜間想定等、シチュエーションを変えて、年2回避難訓練を行い、どんな状況でも対応できるように取り組んでいる。	年2回避難誘導訓練、消火訓練が行なわれており職員は避難、通報等の手順について理解している。消火訓練には地域の方が参加することもある。備蓄品は10日分準備しており定期的に利用し新しい物と入れ替えている。訓練実施後、振り返りは行っているが記録をするまでに至っていない。	今後、よりスムーズで安全な避難誘導が出来る様に、訓練後の振り返りを毎回記録として残し、次の訓練に活かすことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期学習会で人権や個人の尊厳について学び、利用者様に合った言葉使いや対応を心掛けている。	利用者への呼称は同姓の方以外は苗字としている。居室出入り口にも必要に応じ、のれんを設置するなどプライバシーを損ねないようにしている。言葉かけが無理強いとにならないように、一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく生活できるように支援を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをとりながら日常生活を観察し、ご本人の思いや希望を表し、自己決定をしやすいように引き出すべく努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の基本的な流れはあるが、その日の体調・希望に合わせて柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面や整容。外出時の着替えの声かけ・介助など、その人らしい身だしなみができるように支援している。また飲食後、食べ溢し等によって服装が汚れた場合には、随時着替えの声掛け・介助を行うようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月行事の食事作りやおやつ作りは、利用者様の希望を取り入れるようにしている。また、野菜の下ごしらえを利用者様の能力に応じてお願いしている。	利用者の重度化で出来ないことが増えているが、台拭き等できることを手伝ってもらい職員と一緒に食事を楽しんでいる。湯飲みや箸は誕生日プレゼントとして職員が選んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、摂取量を把握出来るようにしている。また、食事形態や食事介助等、本人の状態に応じた支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・誘導・見守りを行い必要な方には介助を行っている。口腔ケア後、口まわりも綺麗にし清潔保持している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また、利用者様の要望があった時も誘導を行っている。出来るかぎりトイレでの排泄を支援し、必要時は職員二人にて対応している。	利用者ごとの排泄のタイミングを見て、個々に応じた声掛けをしながらトイレ誘導をしている。座位保持が出来る方は紙おむつであっても日中はトイレに誘導している。声掛けをして早めのトイレ誘導をすることで失敗が減るなど自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を記録し、状態を把握し、緩下剤・座薬・浣腸など各々の状態に応じた対応をしている。また午前中の水分補給には、牛乳を提供し午後3時のおやつ前には、体操への参加を促す等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者全員が最低週2回入浴出来るようにしている。午前中、必要があれば午後にも行っている。拒否が強い方には無理強いせず、声かけを工夫したり、時間をおいて再度声かけする等、清潔が保てるように支援している。	入浴を拒まれる場合は時間や対応する職員を変え、改めて声掛けをしている。シャンプーなどは事業所で準備しており、個人の好みに合わせ持ち込むこともできる。ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯も行い、入浴を楽しめるように支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れの見える利用者には声かけ・誘導し、休息を促すなど、本人のペースで生活出来るように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を各々のバイタル表の裏に貼り付け、いつでも確認できるようにしている。また、薬の変更があった時は、申し送りノートに記入し、職員全員が薬について情報を把握出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人1人の能力に応じて、洗濯物量みなどお手伝いをお願い、感謝と労いを忘れないようにしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節が良い時は、近隣を散歩したり、初詣や季節の花を見に行くと呼称してドライブに行ったりしている。外出時は、マスク着用且つ密にならないようにし安全に楽しめるように配慮している。	日々のケアの中では、少人数で近隣への散歩に出かけ地域の方と挨拶を交わしたり、庭先を借りみんなで観梅も行っている。初詣や季節の花の観賞など月に1~2回ドライブに出かけている。ドライブは複数回に分け、できる限り全員が参加できるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の所持金管理が難しいので、入居時にお金の管理は、御家族に依頼している。必要時には、立替にて対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望があれば、何時でも対応出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、常に清潔且つ整理された状態を維持するように努める。また季節ごとの飾り付けをしたり、ソファーや畳のスペースを作ったり、利用者様が快適に過ごせるように努めている。	リビングの窓からは大きな桜の木が目の前に広がり、季節の移り変わりが感じられる。職員は、七夕飾りなど四季折々の飾り付けや各部屋の入り口に職員お手製の色とりどりの表札を掛けるなど居心地良く過ごせるように努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子・テーブル・畳を設置し、外の景色を眺めたり、日光浴をしたり、気の合った利用者様同士で談笑したり、思い思いの時間を楽しめるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを持ち込んでいただき、出来るだけ落ち着いた環境作りに努めている。転倒防止の為、常に環境整備を行い安全に生活出来るようにしている。	居室にタンスや仏壇など、使い慣れた思い出の品を持ち込み、個々に好みの配置をしている。ペットの写真や本人作成の塗り絵カレンダー等が飾られ、定期的な換気も行うなど、居心地良く過ごせるように配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行事予定や壁に大きなカレンダーを貼る事で、日課の確認や視覚的に季節感を感じる事が出来るようにしている。また、居室を分かり易くする為に表札を掲げている。		